

なごやのまちなか
生物多様性緑化
ガイドライン
ポケット版



名古屋市

みんなで進める生物多様性緑化（理想の姿）



目次

生物多様性緑化ってなに？	1
生物多様性緑化に挑戦してみよう！	
生物多様性緑化のポイント	2
ポイント① 緑地のコンセプトを考えよう	3
ポイント② 生きもののエサ場・すみかとなる工夫をしよう	7
ポイント③ 在来種を植えよう	13
ポイント④ 維持管理の工夫をしよう	17
資料 1 生物多様性を向上させる植物リスト	21
資料 2 レベル別チェックリスト	25

生物多様性緑化ってなに？



POINT

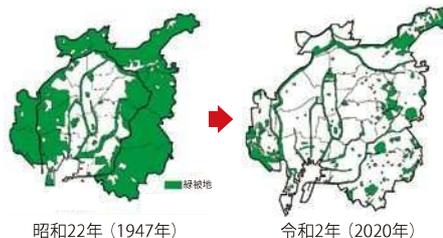
生物多様性緑化とは

生きもののすみか・エサ場・休息場所などに配慮した緑化のことです。



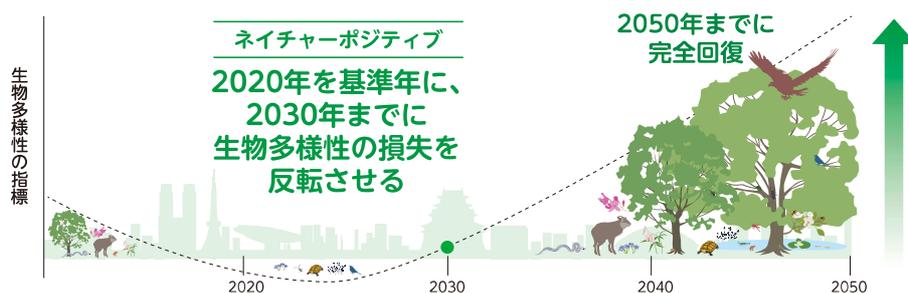
生物多様性のいま

生物多様性とは、多様な生きものが存在し、それらの生きものがお互いにつながりあい、バランスが保たれている状態のことをいいます。私たちの暮らしは生物多様性に支えられていますが、現在、生物多様性はどんどん劣化が進んでいます。



ネイチャーポジティブ

そうした状況を食い止めるため、2030年までに生物多様性の損失を反転させる「ネイチャーポジティブ」という目標が、世界の新たな潮流となっています。

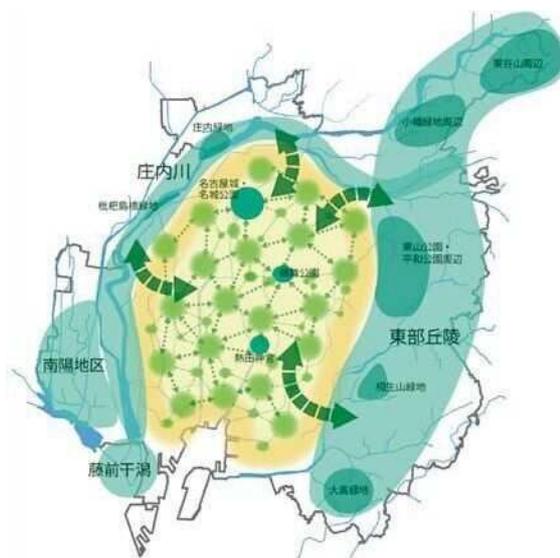


生物多様性緑化は、ネイチャーポジティブに向けて私たちにできる取組の一つです！
次ページからは生物多様性緑化のやり方について具体的に紹介していきます。

生物多様性緑化に挑戦してみよう！



生物多様性緑化の目指すところは、規模の大小を問わず、生態系が豊かな場所を増やし、つなげ、名古屋全体の生態系ネットワークを豊かにしていくことです。



生物多様性緑化のポイント

① 緑地のコンセプトを考えよう

- ◆ 呼びたい生きものをイメージする（目標種の設定）

② 生きもののエサ場・すみかとなる工夫をしよう

- ◆ 緑をできるだけ増やす
- ◆ 土に気を配る
- ◆ 花や実をつける植物を植える
- ◆ 多様な環境をつくる

③ 在来種を植えよう

- ◆ 侵略性のある植物は植えない
- ◆ 在来種を植える

④ 維持管理の工夫をしよう

- ◆ 必要な作業をイメージする
- ◆ 時間をかけて緑地を育てる
- ◆ 農薬や肥料に気を使う
- ◆ 剪定や草刈り、清掃に気を使う
- ◆ モニタリングする

1

緑地のコンセプトを考えよう

呼びたい生きものをイメージする（目標種の設定）

花や実をエサにする生きものの多くは、種類ごとに好む特定の植物があります。目標とする生きもの（目標種）を設定し、その種に応じた植物を植えることで、呼びたい生きものが訪れやすい緑地を作ることができます。

POINT

目標種の設定方法

近くに生態系が豊かな場所がある場合

近くの場所に暮らす生きものを呼ぶことを目指すとよいでしょう。

近くにまとまった自然がない場合、どんな生きものかわからない場合

比較的移動距離が長く、空を飛べる鳥類やチョウ類を呼ぶことを目標にするとよいでしょう。

迷った場合

次ページ以降に名古屋のまちなかでも呼びやすく、目標種にしやすい生きものを一覧にしています。まずは、この一覧を参考に目標種を設定しましょう。



土壌には、様々な生きものが生活や越冬のためにやってきます。

目標種の例（呼び込みやすい鳥類と利用する食餌木）

凡例：食餌木のうち太字は在来種、太字かつ下線は資料1のリスト（P21）に載っている種です。

<p style="text-align: center;">シジュウカラ</p> 	<p>特 徴</p> <p>食 餌 木</p>	<p>樹林性のカラ類の中で最も都市部でもよく見られる種類。留鳥。</p> <p><u>アカマツ</u>、<u>クロマツ</u>、<u>ニシキギ</u>、<u>ヤマザクラ</u>、<u>ヤマボウシ</u>、<u>リョウブ</u>、<u>イロハモミジ</u>、<u>ハンノキ</u>、<u>ホオノキ</u>、<u>エゴノキ</u>、<u>サンショウ</u>、<u>ヤマブキ</u>、<u>ガマ</u>など</p>
<p style="text-align: center;">カワラヒワ</p> 	<p>特 徴</p> <p>食 餌 木</p>	<p>森林から開けた環境まで見られる種。市街地では空き地でタンポポなどの種子を食べる。留鳥。</p> <p><u>アカマツ</u>、<u>クロマツ</u>、<u>アラカシ</u>、<u>アキニレ</u>、<u>イロハモミジ</u>、<u>カナメモチ</u>、<u>ニシキギ</u>、<u>ヒサカキ</u>、<u>ムラサキシキブ</u>、<u>ズミ</u>、<u>ススキ</u>、タンポポ類（<u>トウカイタンポポ</u>ほか）など</p>
<p style="text-align: center;">メジロ</p> 	<p>特 徴</p> <p>食 餌 木</p>	<p>樹林性だが、都市部でも見られる。目の周りが白い。留鳥だが都市部では冬によく見かける。</p> <p><u>エゴノキ</u>、<u>エノキ</u>、<u>アオハダ</u>、<u>イロハモミジ</u>、<u>マユミ</u>、<u>ガマズミ</u>、<u>クチナシ</u>、<u>サネカズラ</u>、<u>サンショウ</u>、<u>センリョウ</u>、<u>ツリバナ</u>、<u>ニシキギ</u>、<u>クロガネモチ</u>、<u>セマモモ</u>、<u>クチナシ</u>、<u>ヤマザクラ</u>、<u>ムラサキシキブ</u>など</p>
<p style="text-align: center;">ツグミ</p> 	<p>特 徴</p> <p>食 餌 木</p>	<p>冬鳥として飛来する。茶色く、目の上に白いラインがある。</p> <p><u>ムクノキ</u>、<u>アオハダ</u>、<u>マユミ</u>、<u>クロガネモチ</u>、<u>ソヨゴ</u>、<u>クチナシ</u>、<u>センリョウ</u>、<u>イロハモミジ</u>、<u>ノイバラ</u>、<u>セブコウジ</u>、<u>ムラサキシキブ</u>、<u>サネカズラ</u>、<u>ヤブラン</u>、<u>ジャノヒゲ</u>など</p>
<p style="text-align: center;">ジョウビタキ</p> 	<p>特 徴</p> <p>食 餌 木</p>	<p>冬鳥として飛来する。胸から腹、尾にかけて橙色。</p> <p><u>サンショウ</u>、<u>ムラサキシキブ</u>、<u>ヤブラン</u>、<u>ソヨゴ</u>、<u>ニシキギ</u>、<u>ヒサカキ</u>、<u>センリョウ</u>、<u>セブコウジ</u>、<u>ガマズミ</u>、<u>クロガネモチ</u>、<u>ヤブラン</u>など</p>
<p>確認場所</p>	<p>名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、庄内緑地、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、黒川、ノリタケの森、白川公園、堀川</p>	

目標種の例（呼び込みやすいチョウ類と利用する植物・幼虫の食草）

凡例：植物のうち太字は在来種、太字かつ下線は資料1のリスト（P21）に載っている種です。

アオスジアゲハ 	特 徴	平地から丘陵地の照葉樹林に生息。食草が生える社寺林、街路樹、公園なども好む。黒地に青いスジが1本入っている。
	吸蜜植物	カクレミノ 、 ウツギ 、 トベラ 、 オミナエシ 、 フジバカマ など
	食樹・食草	クスノキ科の樹木（ クスノキ 、 タブノキ など）
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、大高緑地、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、ノリタケの森、久屋大通公園、白川公園
ナミアゲハ 	特 徴	里山から人家まで幅広く生息する。
	吸蜜植物	ツツジ類（ モチツツジ 、 コバノミツバツツジ ）、アザミ類（ ノアザミ ）、 オミナエシ など
	食樹・食草	ミカン類、 サンショウ など
	確認場所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、庄内川、小幡緑地、大高緑地、東山公園・平和公園、久屋大通公園、徳川園、白川公園、鶴舞公園
ヤマトシジミ 	特 徴	カタバミが生える空間があれば、どこでも発生する。翅の裏は灰褐色で黒斑がある。表はオスは青っぽくメスは黒っぽい。
	吸蜜植物	オカトラノオ 、 オミナエシ 、 フジバカマ など
	食樹・食草	カタバミ など
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、大高緑地、庄内川、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、ノリタケの森、久屋大通公園、白川公園
モンシロチョウ 	特 徴	主に平地から丘陵地の農地やその周辺の荒地などに生息。全体に白く、前翅には黒斑があり、翅の縁が黒くなっている。
	吸蜜植物	ヤマブキ 、 ノアザミ 、 フジバカマ など
	食樹・食草	アブラナ科の植物（ ナノハナ 、 キャベツ など）
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、ノリタケの森、久屋大通公園、白川公園
キタキチョウ 	特 徴	草原や公園の草むらなどに生息する。黄色いチョウで、翅の裏に黒褐色の斑がある。
	吸蜜植物	スマレ類、キク類など
	食樹・食草	マメ科の植物（ ヤマハギ など）
	確認場所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、小幡緑地、大高緑地、東山公園・平和公園、徳川園、白鳥庭園、鶴舞公園
ツマグロヒョウモン 	特 徴	主に平地から丘陵地の明るい草地に生息。前翅の先端が黒い。
	吸蜜植物	ノアザミ 、 ノコンギク 、 フジバカマ 、 オミナエシ など
	食樹・食草	パンジー、スマレ類（ タチツボスマレ など）
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、ノリタケの森、久屋大通公園、白川公園
イチモンジセセリ 	特 徴	平地から山間地の草原に多く生息するが、都市部でも多くみられる。翅の裏面に銀色の紋が4つ並ぶ。
	吸蜜植物	ハギ類、キク類、アザミ類など
	食樹・食草	イネ科の植物（ ススキ 、 チガヤ 、 メヒシバ 、 エノコログサ など）
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、庄内川、鶴舞公園、徳川園、白鳥庭園、ノリタケの森、久屋大通公園、白川公園

(チャレンジ) 生態系の回復により見られる可能性がある生きものの例

 <p>ムラサキシジミ</p>	特 徴	小型の青紫色のチョウで、黒縁取りがある。幼虫は蜜を分泌して、アリを誘因する性質を持つ。
	吸蜜植物	花を訪れることは少なく、成虫のエサはよく分かっていない。
	食樹・食草	<u>アラカシ</u> 、 <u>シラカシ</u> 、 <u>スタジイ</u> などブナ科常緑樹
	確認場所	名古屋城・名城公園、庄内川、小幡緑地、大高緑地、東山公園・平和公園、中村公園、徳川園、白鳥公園
 <p>ナガサキアゲハ</p>	特 徴	平地から丘陵地、主に食草の多い農地や人家周辺で発生する。
	吸蜜植物	ツツジ類（ <u>ミカワツツジ</u> 、 <u>ヤマツツジ</u> 、 <u>モチツツジ</u> ）など
	食樹・食草	ミカン類など
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、相生山緑地、大高緑地、久屋大通公園、白川公園、白鳥庭園
 <p>ルリシジミ</p>	特 徴	雑木林や人家の周辺に生息。翅の表は青色、メスには黒縁がある。
	吸蜜植物	<u>リョウブ</u> 、 <u>アセビ</u> 、 <u>ウツギ</u> 、 <u>ヤマハギ</u> など
	食樹・食草	<u>アセビ</u> 、 <u>ウツギ</u> 、 <u>ヤマハギ</u> など
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、白鳥庭園
 <p>ゴマダラチョウ</p>	特 徴	中型の黒地に白い斑点が目立つチョウ。
	吸蜜植物	<u>クヌギ</u> などの樹液や熟した果実など。
	食樹・食草	<u>エノキ</u>
	確認場所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、庄内川、大高緑地、東山公園・平和公園、白鳥庭園
 <p>クワガタ</p>	特 徴	日本で最も一般的に見られるクワガタムシの一つ。
	生 態	成虫は様々な広葉樹の樹液に集まる。夜間に灯火に飛来することもある。ナラやカシなどの太い落枝を存置しておくことが必要。
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、東山公園・平和公園
 <p>ヤマトタムシ</p>	特 徴	金緑色で赤い条線のある美しい昆虫。
	生 態	<u>エノキ</u> や <u>ケヤキ</u> 、サクラの生葉を食べる。これらの太い枯れ枝に産卵し、幼虫は枯れ木にトンネルを作りながら木質部を食べ成長する。
	確認場所	名古屋城、熱田神宮、小幡緑地、相生山緑地、大高緑地、東山公園・平和公園
 <p>コゲラ</p>	特 徴	山地の林から市街地の公園まで、木のあるところに広く生息する。キツツキの仲間。留鳥。
	食 餌 木	<u>マユミ</u> 、 <u>クサギ</u> 、 <u>ニシキギ</u> 、 <u>ツルウメモドキ</u> など
	確認場所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、白川公園、鶴舞公園、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、堀川、白鳥庭園
 <p>ヤマガラ</p>	特 徴	樹林性で社寺林や公園で見られることもある。「山吹色のお腹のカラ」が名前の由来。留鳥だが、市街地の公園等では冬季によく見られる。
	食 餌 木	<u>アカマツ</u> 、 <u>イロハモミジ</u> 、 <u>サンショウ</u> 、 <u>シラカシ</u> 、 <u>エゴノキ</u> など
	確認場所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、庄内緑地、中村公園、鶴舞公園、黒川

2

生きもののエサ場・すみかとなる工夫をしよう

緑をできるだけ増やす

プランターを活用する

生物多様性緑化はプランター1つからでもOK！
プランター栽培には小さなスペースでできる、場所を移動できるなどの利点があります。



POINT

- ・土の量が少なく、乾燥しがちなため、こまめに水やりをしましょう。
- ・水はけの良い土壌を好むものや湿度を好むものなど、好む環境が大きく異なる植物は混植しないようにしましょう。
- ・地植えに比べ養分の供給が限られるため、適宜、肥料を使用しましょう。



⚠️ 注意！

共同住宅などにおいては、管理ルールを守り、プランターの設置場所は共用部や避難経路の邪魔にならない場所を選びましょう！

壁面緑化を行う

現在では壁面緑化の手法も多様化しており、様々な植物種を壁面に植栽できるようになっています。

屋上緑化を行う

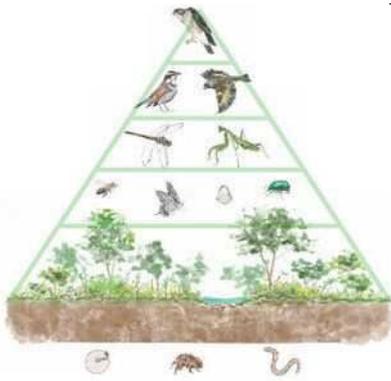
⚠️ 注意！

荷重条件の確認や防水層の保護、落下防止などの安全対策を忘れずに！

土に気を配る

生きものによい土壌をつくる

土壌は植物に水や養分を提供し、根を支えています。また、微生物を含む様々な生きものすみかでもあり、地上と地下の生態系の要です。



土台となる土壌が良質、
植生が豊か

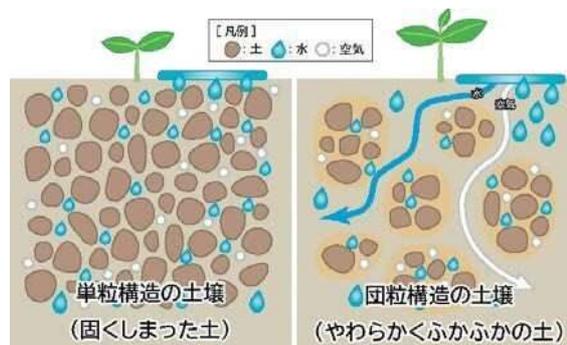
生きものの種や個体数が多い

生態系ピラミッドの底辺が
大きい・階層が高い

POINT

生きものによい土壌にするために

土壌の硬さや排水性、栄養分の量などを考慮して、排水施設の設置や土壌改良材（多くは土壌の団粒構造を形成するもの：下図参照）による改良、施肥を行った上で、緑化を行きましょう。



【緑化のための基盤整備の参考資料】

- ・「緑化地域制度マニュアル②植物施工事例編」名古屋市緑政土木局緑地部緑地維持課
- ・「緑化・植栽マニュアル改訂 計画・設計から施工・管理まで」出版：一般財団法人経済調査会
- ・「緑を創る植栽基盤—その整備手法と適応事例—」出版：ソフトサイエンス社

花や実をつける植物を植える

POINT

生きもののエサとなる植物を植える！

P14「特におすすめの在来種リスト」や、
P21「生物多様性を向上させる植物リスト」を参考に植物を選んでみましょう。



クロガネモチの実をついばむカワラヒワ



ノアザミで吸蜜するナミアゲハ



ウメモドキの実をついばむジョウビタキ



ノコンギクで吸蜜するキタキチョウ



ゴンズイの実をついばむツグミ



オカトラノオで吸蜜するツマグロヒョウモン



ツルウメモドキの実をついばむメジロ



幼虫の食樹アラカシで休むムラサキシジミ

多様な環境をつくる

様々な種類の植物を植える

生きものは、それぞれの種に特定の好みの実や花があり、様々な植物を植えることは、より多くの種類の鳥や昆虫にエサやすみかを提供することにつながります。



木の高さや植える間隔に変化をつける

高・中・低木、草本を組み合わせることで階層構造を作ったり、植栽密度に変化を加え、明るい場所や暗い場所を作ることによって、多種多様な生きものが集まる環境となります。



花の色・高さ・開花時期に変化をつける

- ▶花の色や高さに変化をつけることで、花の色を目印にして集まるチョウや、飛ぶ高さが異なる昆虫などを呼ぶことができます。
- ▶また、開花時期に変化をつけ、季節ごとに花や実をつけるようにすると、活動時期の異なる様々な生きものが集まります。

草地をつくる

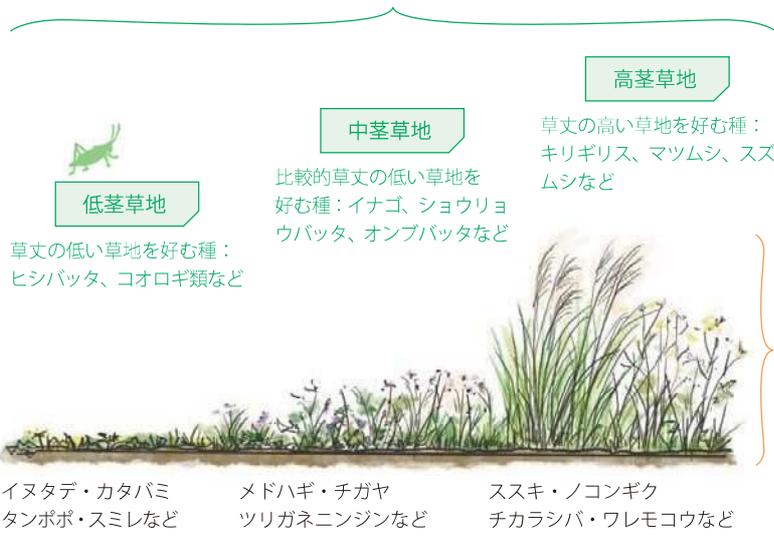
- ▶中高木の植樹が困難な場合でも、草本を中心とした草地を作ることによってバッタ類やチョウ類など草地性の生きものを呼び込むことができます。
- ▶訪れる昆虫類が増えれば、それをエサにする鳥類も来るようになります。



草地にいる昆虫類、草本の種子をエサとする鳥類など



草地にいる昆虫類をエサとする大型昆虫類など



POINT

草地をつくる時のコツ

草丈が異なる種を植えたり、草刈りの頻度や時期をずらしたりすると、生息する生きものの種類を増やすことができます。

水辺をつくる

生きものにとって水は大変重要なため、水場を設けるとすぐに生きものを呼び寄せることができます。特に、都市部やまちなかでは生きものが利用可能な水場が少ないため、小規模な水辺であっても生きものを呼ぶ効果が高いと言えます。

POINT

水辺をつくる時のコツ

- ▶ 目標種や敷地面積、メンテナンス等を考慮し、水辺のタイプを検討する。
- ▶ 使用する水は水道水ではなく、雨水の利用を基本とする。

《いちばん簡単！バードバス・水鉢等》

3～4センチ程の深さがある鉢皿や、くぼみのある自然石に水を張るだけで、鳥類の水飲み・水浴び場、昆虫類の吸水場とすることができます。



POINT

鳥が野良猫に襲われない工夫

- ・ 水盤を高い場所に設置
- ・ 金網を掛ける
- ・ 猫が移動する茂みから離す
- ・ 棘のある植物の茂みの近くに設置

⚠注意！

貯められる水の量が少なく、夏場は高温になってしまうため、頻繁に水替えをするようにしましょう！

《トンボを呼べる!? ミニビオトープ》

トロ舟やメダカ鉢等に土壌や石、水草を入れて、小さな水辺をつくったら、鳥類の水飲み・水浴び場、昆虫類の吸水場、トンボの産卵場などになります。トンボが産卵してヤゴになったら、そのまま飼うこともできますよ。



⚠注意！

- ▶ ヤゴは肉食なので、小魚との混泳には注意しましょう！
- ▶ トンボが成虫になる時のことを考慮し、浮草だけでなく丈のある水草を入れるとよいです。

3

在来種を植えよう

侵略性のある植物は植えない

見栄えの美しさや管理のしやすさなどから外来種を取り入れる場合には、特定外来生物（生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を与える、または与える恐れがある生物）や周辺の生態系に悪影響を及ぼす恐れがあるものの使用は避けましょう。

⚠️ 注意！

植えてはいけない外来種

特定外来生物	
概 要	<ul style="list-style-type: none"> 生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、又は及ぼす恐れがあり、外来生物法により、栽培、運搬、野外への放出等が規制される種。 規制に違反すると最高で懲役3年、罰金300万円（個人）、または、1億円（法人）が科される場合がある。
植 物 例	オオキンケイギク、オオハンゴンソウ（ルドベキア） など

生態系被害防止外来種リスト（環境省）の外来種	
概 要	<ul style="list-style-type: none"> 外来生物法の規制はないものの、生態系等への被害を及ぼす恐れがあり、防除や対策が必要とされる生物。 一般的に販売されているものもあるため、気づかずに使用しないように注意する。
植 物 例	〈木本植物〉 ニワウルシ（シンジュ）、トウネズミモチ、ブッドレア（フサフジウツギ）、モウソウチクなど 〈草本植物〉 シュッコルピナス（ノボリフジ）、アフリカハウセンカ（インパチェンス）、ヒメイワダレソウ、ツルニチニチソウ、アオノリュウゼツラン、外来ノアサガオ類、ヨシススキなど

※上記以外にも、愛知県が「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」において、生態系に著しく悪影響を及ぼす恐れがある移入種を定めています。

【詳細は以下のウェブサイトを参照】

- ・生態系被害防止外来種リスト（環境省ウェブサイト）
【環境省】 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>
- ・条例に基づく移入種の公表について（愛知県ウェブサイト）
【愛知県】 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-jourei.html>
- ・なごやの外来種（名古屋市ウェブサイト）
【名古屋市】 <https://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-5-22-2-4-0-0-0-0-0-0.html>

在来種を植える

地域に元々自生している植物（在来種）は、周辺の自然環境や立地条件に合わせて生態系を支えてきた植物です。在来種を植えることにより、これらの植物を元々利用していた生きものを呼び寄せる効果が期待できます。

POINT

《特におすすめの在来種リスト》を参考に植物を検討しよう！

生物多様性緑化を行う際に、特におすすめの植物を以下に紹介しています。

【選定基準】

- ・名古屋在来の普通種
- ・一般に入手しやすいもの
- ・花や実が生きもののエサとなるなど、生きものを呼び込む効果の高いもの
- ・都市の環境に適応しやすく、維持管理が難しいもの
- ・生きものが継続して利用可能な樹木や多年草であるもの
- ・見た目が美しく、華やかな印象をもつもの

また、このリストのほかにも、P21巻末資料には「生物多様性を向上させる植物リスト」を掲載しているので、あわせて参考にしてみてください。

特におすすめの在来種リスト

凡例 ：鳥の食餌木 ：吸蜜植物及び幼虫の食草

常緑 高木・中高木	
アラカシ    <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 高木 ・高さ 10～20m ・実：秋 ・日向 ・水はけの良い土壌 ・アオバト ・ムラサキシジミ（食草） 	クロガネモチ   <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 高木 ・高さ 5～10m ・実：秋～冬 ・日向～半日陰 ・適度に湿り気のある土壌 ・メジロ ジョウビタキ ・ヒヨドリ ツグミなど
ソヨゴ   <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 中高木 ・高さ 3～7m ・実：秋～冬 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・ジョウビタキ ヒヨドリ ・ツグミ ヒレンジャクなど 	ヤマモモ   <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 高木 ・高さ 6～10m ・花：春 実：初夏～夏 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・ヒヨドリ ムクドリ ・メジロなど
常緑 低木・小低木	
アセビ   <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 低木 ・高さ 2～4m ・花：春～初夏 実：秋 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・ルリシジミ コツバメなど 	クチナシ    <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 低木 ・高さ 1～2m ・花：初夏～夏 実：秋～冬 ・半日陰 ・適度に湿り気のある土壌 ・メジロ ツグミ ・オオスカシバ（食草）

常緑 低木・小低木	
<p>センリョウ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 低木 ・高さ 0.5～1.5m ・実：秋～冬（2月頃まで） ・明るい日陰 水はけが良く適度に湿り気ある土壌 ・メジロ ジョウビタキ ツグミ ヒレンジャクなど 	<p>ヤブコウジ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 小低木 ・高さ 0.1～0.3m ・実：秋～冬（2月頃まで） ・明るい日陰 水はけが良く適度に湿り気ある土壌 ・キジバト ジョウビタキ ツグミ ヒヨドリなど
常緑 多年草	
<p>タチツボスミレ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 多年草 ・高さ 0.1m ・花：春～初夏 ・半日陰 ・排水の良い土壌 ・ツマグロヒヨウモン（食草） セセリチョウなど 	<p>ヤブラン </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 多年草 ・高さ 0.2～0.5m ・花：夏～秋 実：秋 ・日向～日陰 ・幅広い環境に適応 ・キジバト ジョウビタキ ツグミ ヒヨドリなど
半常緑 常緑 つる性木本	
<p>スイカズラ  </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・半常緑 つる性木本 ・長く伸び下部は木質 ・花：初夏～夏 ・日向 ・水はけの良い土壌 ・メジロ ヒヨドリ アゲハ類など 	<p>サネカズラ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・常緑 つる性木本 ・長く伸び茎は柔らかい ・花：夏 実：秋 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・メジロ ヒヨドリ ツグミ など
落葉 高木・小高木	
<p>アオハダ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 高木 ・高さ 5～8m ・実：秋 ・日向～半日陰 ・水はけ良く適度に湿り気のある土壌 ・メジロ ツグミなど 	<p>イロハモミジ  </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 高木 ・高さ ～15m ・秋に紅葉 ・半日陰～日向 ・水はけの良い土壌 ・シジュウカラ ヤマガラ ミスジチョウ（食草）
<p>エゴノキ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 小高木 ・高さ 7～8m ・花：初夏 実：夏 ・日当たりと水はけが良く適度に湿り気のある土壌 ・メジロ シジュウカラ ヒヨドリなど 	<p>コナラ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 高木 ・高さ ～15m ・花：春 実：秋 ・日当たりと風通し水はけの良い土壌 ・ムラサキシジミ（食草） コクワガタなど
<p>ヤマザクラ  </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 高木 ・高さ ～25m ・花：春 ・日当たりと水はけの良い土壌 ・メジロ シジュウカラ テングチョウなど 	<p>マユミ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 小高木 ・高さ ～3m ・花：初夏 実：秋 ・日向を好み、半日陰では紅葉の色が悪くなる ・メジロ ヒヨドリ ツグミ など

落葉 低木	
<p>ガマズミ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 2～5m ・花：初夏 実：秋 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・メジロ ツグミ コツバメ ・トラフシジミなど 	<p>コバノミツバツツジ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 1.5～3m ・花：春 ・日向～半日陰 ・水はけの良い酸性土壌 ・セセリチョウなど
<p>サンショウ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 1.5～3m ・花：春～初夏 実：秋 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・メジロ ヤマガラ ・アゲハ類（食草） 	<p>ニシキギ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 1.5～3m ・花：初夏 実：秋 紅葉 ・日向～半日陰 ・水はけの良い土壌 ・シジュウカラ カワラヒワ ・ジョウビタキなど
<p>コムラサキ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 2～5m ・花：夏 実：秋 ・日当たりが良く湿り気のある土壌 ・カワラヒワ ウグイス ・メジロ ジョウビタキなど 	<p>ヤマブキ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 低木 ・高さ 1～2m ・花：春 ・日当たりと水はけの良い土壌 ・シジュウカラ ムクドリ ・モンシロチョウなど
落葉 多年草	
<p>ウツボグサ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 0.1～0.4m ・花：初夏～夏 ・日当たりが良く水はけの良い土壌 ・スジグロシロチョウ ・ジャノメチョウなど 	<p>オカトラノオ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 0.6～1m ・花：夏 ・日当たりが良く水はけの良い土壌 ・シジミ類 アゲハ類など
<p>ススキ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 2m ・花穂：秋 ・日当たりと水はけの良い場所 ・カワラヒワ セセリチョウ ・ジャノメチョウなど 	<p>ノアザミ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 0.5～2m ・花：春～秋 ・日当たりと水はけ、風通しの良い場所 ・アゲハ類 モンシロチョウ ・ツマグロヒョウモンなど
<p>ノコンギク </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 0.3～1m ・花：秋 ・日向から半日陰 ・西日の当たらない場所 ・タテハ類など 	<p>ワレモコウ </p>  <ul style="list-style-type: none"> ・落葉 多年草 ・高さ 0.3～1m ・花：夏～秋 ・日当たりと水はけ、風通しの良い場所 ・ヒョウモンチョウ ・コマシジミチョウ（食草）

4

維持管理の工夫をしよう

必要な作業をイメージする

生物多様性緑化

生きものに配慮した植栽



維持管理

植栽直後の水やり

植栽直後は、土壌に植物が根付いていないので、水をたっぷり与えて、土壌への根付きを促しましょう。

根付いた後の水やり

根付いた後はできるだけ、自然の雨水で成長するよう、様子を見ながら水やりの回数を調節しましょう。

POINT

プランターの場合は土壌表面が乾いていたらたっぷり水をあげよう！

【頻度の目安】 春・秋：雨の日を除いて3日に1回程度

夏：雨の日を除いて毎日

冬：1週間に1回程度



剪定・花がらつみ等の維持管理

高木	基本的に不要ですが、枝が込み合ってきた場合は剪定が必要です。 ※道路に飛散した落葉落枝は適宜掃除し、土壌に還すようにしましょう。
低木	2年目以降は、通行等の邪魔になる枝を随時剪定します。
草本	花が終わったら花がらを取ります。
宿根草	冬に地上部が枯れたら地際で切ります。 ※立ち枯れた姿を景観として残す管理方法もあります。 ※株が込み合ってきたら、株分けや、間引きをします。
つる植物	伸びてきたらフェンスなどに誘引します。

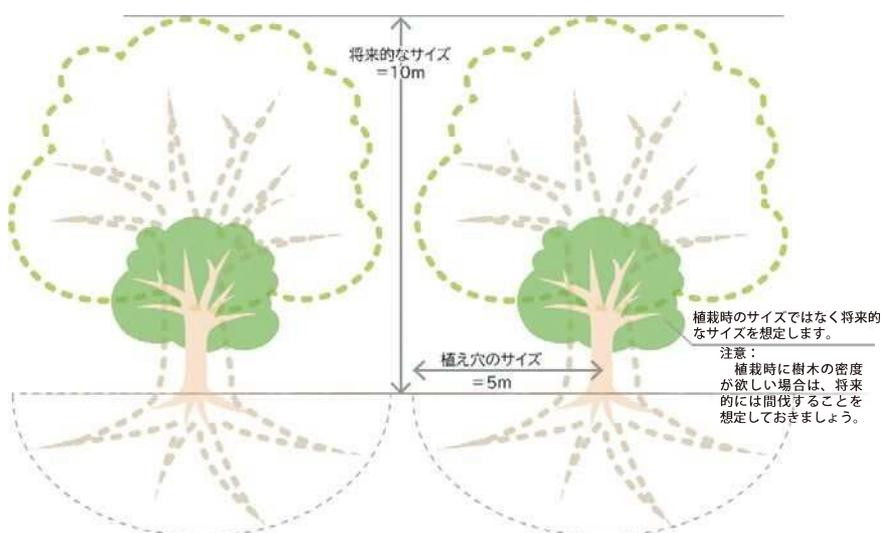
時間をかけて緑地を育てる

将来を想像して木を植える

地上部の幹や枝だけではなく、その幹を支える根も大きく成長するため、地上部の空間や土壌の広がりや深さを確保しましょう。

POINT

植栽時のサイズではなく将来的なサイズを想定しよう！



間引きも必要

- ▶ 樹木が大きく育ってきた場合、そのままの状態にしておくと、緑地全体の樹木の生育が悪くなります。
- ▶ ある程度大きくなったら、周りに比べて生育状況の悪い樹木を間伐して、間引くことで、緑地全体の健全な生育が保たれます。

土壌を育てる

- ▶ 年月を経た樹林は腐植土層が多く、様々な昆虫が多く生息しています。
- ▶ 落ち葉の清掃や草刈りの頻度に気を使い、土壌の中の生きものや微生物の多様性にも目を向けましょう。

農薬や肥料に気をを使う

適度に有機肥料を使用することで、土壌の条件が悪化しやすいまちなかでも、土壌の微生物を増加させ、土壌条件を改良することができます。

POINT

化学農薬だけに頼らない病害虫対策を行うために

- ▶ 殺虫剤や殺菌剤はできるだけ使わない。
(⇒土壌の微生物への影響だけでなく、近づく人への影響にも配慮できます。)
- ▶ 少量の病害虫であれば、人力やトラップで取り除く。
(⇒早期発見が重要なため、定期的に植物の状況を観察することが有効です。)
- ▶ やむをえず薬剤を使用する場合は、木酢液などの天然由来のものを使う。
- ▶ 多種多様な植物を植える。
(⇒病害虫の天敵が増え、管理が容易になります。)



剪定や草刈り、清掃に気をを使う

落ち葉などをあえて残す

- ▶ 落葉や落枝が微生物に分解されることで肥料になります。また、落葉を溜める場所を作っておくと昆虫やミミズなどのすみかにもなります。
- ▶ さらに、地表の乾燥を防ぐ効果もあります。



自然に生えてきた植物を残す

自然に生えてきた植物であっても、生きもののエサやすみかとなるため、すべての侵入植物をきれいに抜く必要はありません。

POINT

自然の恵みを楽しむ

ヨモギやドクダミは日本でも古くから食用や薬用として活用されてきた植物です。「雑草」として抜いてしまわず、自然の恵みとして活用してみてもはいかがでしょうか。



ヨモギ



ドクダミ

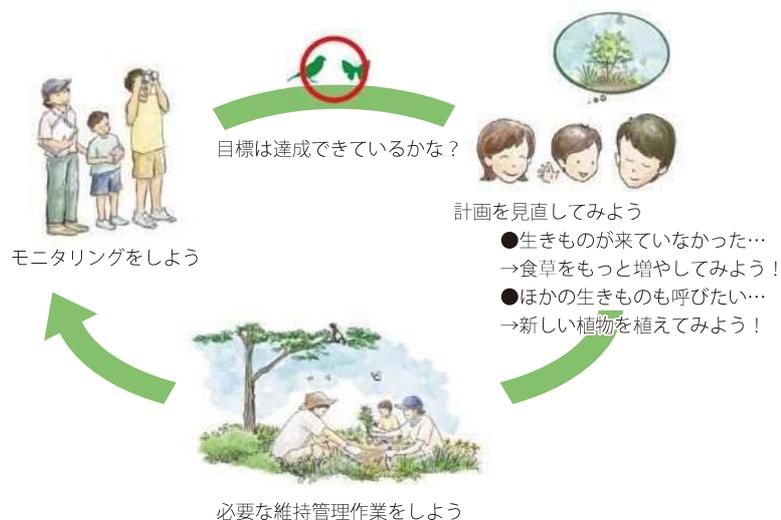
ヨモギは、お餅や蒸しパンに混ぜて食用に。

ドクダミの花は虫刺されのかゆみ止め、葉はお茶にすることができます。



モニタリングする

- ▶緑地の植物や訪れる生きものを継続的に観察しましょう。
- ▶目標とする生きものが来たか、植栽がきちんと育っているかなど、当初の目標を達成しているかを検証し、必要に応じて管理の見直しを柔軟に行いましょう。



チョウは来てほしいけれど、幼虫は嫌ですか？

- ・チョウなどの幼虫は、一般には植物を食べてしまう害虫にも思えます。害虫は駆除すべきでしょうか？
- ・その幼虫を駆除することで、鳥が来なくなり、受粉を手伝う虫も一緒に駆除されてしまうことがあるかもしれません。生態系の中の生きものは、すべてが何らかの役割を持っています。
- ・もし幼虫が葉を食べつくしてしまっても、植物は思いのほか適応力があり、また新しい葉をつけるので、害虫として駆除せずに、少し長い目で見守ってあげてください。



ナミアゲハの幼虫に食べつくされたサンショウの葉が復活してきたところ
(名古屋役所西庁舎前)



資料1 生物多様性を向上させる植物リスト

生物多様性緑化を進めるため、植栽に積極的に活用したい植物種のリストです。
 市内に分布する在来種（グリーンデータブックあいちの分布リストで、市内に記載のあるもの）のうち、植栽種として園芸店や造園業社等から入手可能な種を選定しています。（※「名古屋市版レッドリスト2020」に記載のある種を除く）

種名	生きものの利用				開花時期・実のなる時期												日照条件	
	蝶	蜂	鳥類	他昆虫等	春			夏			秋			冬				
					3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
高木類（常緑樹）																		
アカマツ				●														日向
アラカシ	●			●														日向
イヌマキ				●														日向
クロガネモチ				●														日向～日向、半日陰
クロマツ				●														日向
シラカシ	●			●														日向～日向、半日陰
ソヨゴ		●		●														日向、半日陰～半日陰
タブノキ	●			●														日向～日向、半日陰
ツブラジイ				●														日向
モチノキ				●														日向、半日陰～半日陰、日陰
ヤブニッケイ	●																	日向～日向、半日陰
ヤマモモ				●														日向～日向、半日陰
高木類（落葉樹）																		
アオハダ				●														日向
アキグミ	●			●														日向～日向、半日陰
アキニレ	●			●														日向
アズキナシ				●														日向
アベマキ	●			●														日向
イロハモミジ	●			●														日向～日向、半日陰
エノキ	●			●														日向、半日陰
カラスザンショウ	●			●														日向、半日陰
クリ	●	●		●														日向
コナラ	●			●														日向
ネムノキ	●			●														日向
ハンノキ	●			●														日向
ホオノキ		●		●														日向
ミズキ	●			●														日向
ムクノキ				●														日向
ヤマザクラ	●			●														日向

凡例 一：データ不足 凡例 ：開花時期 ：実のなる時期

種名	生きものの利用				開花時期・実のなる時期								日照条件		
	蝶	蜂	鳥類	他昆虫等	春		夏		秋		冬				
					3	4	5	6	7	8	9	10		11	12
中木類（常緑樹）															
イヌツゲ			●												日向～日向、半日陰
ウバメガシ	●														日向～日向、半日陰
カナメモチ			●												日向
カクレミノ	●		●												日向～半日陰、日陰
サカキ			●												日向、半日陰～半日陰
ヒサカキ			●												日向～日陰
ヒイラギ			●												日向、半日陰
ヤブツバキ		●	●												日向～半日陰
中木類（落葉樹）															
カマツカ			●												日向、半日陰
エゴノキ		●													日向
ゴズイ			●												日向
マンサク	●														日向～半日陰
マユミ			●												日向～半日陰
リョウブ	●		●												日向
低木類（常緑樹）															
アオキ			●	●											日向、半日陰～日陰
アセビ	●														日向、半日陰～半日陰、日陰
クチナシ	●		●	●											日向、半日陰～半日陰
シャシャンボ			●												—
センリョウ			●												半日陰
トベラ	●		●												日向～半日陰
マンリョウ			●												半日陰～半日陰、日陰
モチツツジ			●												日向、半日陰
ヤツデ	●		●	●											日向、半日陰～半日陰、日陰
ヤブコウジ			●												半日陰、日陰～半日陰
低木類（落葉樹）															
イヌビワ		●	●												日向
ウツギ	●		●												日向～日向、半日陰
ウメモドキ			●												日向～日向、半日陰
ガマズミ	●		●	●											日向～日向、半日陰
クサイチゴ	●	●	●	●											—
クサギ	●		●	●											日向

凡例 一：データ不足 凡例 ：開花時期 ：実のなる時期

種名	生きものの利用				開花時期・実のなる時期								日照条件		
	蝶	蜂	鳥類	他昆虫等	春		夏		秋		冬				
					3	4	5	6	7	8	9	10		11	12
コバノミツバツツジ	●			●											日向
コマユミ			●												日向
コムラサキ			●												日向～日向、半日陰
サワフタギ			●												—
サンショウ	●		●												日向、半日陰
ズミ			●	●											—
タラノキ			●												日向
ナツハゼ			●												日向～日向、半日陰
ニシキギ			●												日向～半日陰
ネコヤナギ		●													日向
ノイバラ			●												日向
ノリウツギ	●														日向
ムラサキシキブ		●	●												日向、半日陰～半日陰、日陰
ヤマコウバシ			●												—
ヤマブキ	●			●											日向～半日陰
多年草															
アシ (ヨシ)	●		●												日向
ウツボグサ	●	●													日向
オカトラノオ	●	●													日向
ガマ	●		●												日向
カラスウリ			●	●											—
キチジョウソウ			●												日向、半日陰～半日陰、日陰
サルトリイバラ	●														日向
シュンラン		●													半日陰～半日陰、日陰
ススキ	●		●												日向～日向、半日陰
セキショウ	—	—	—	—											日向、半日陰～半日陰、日陰
セリ	●														日向、半日陰
タチツボスミレ	●	●	●												半日陰
ツリガネニンジン	●	●													日向
ツルボ	●	●													—
ネジバナ(モジズリ)		●													日向
ノアザミ	●	●	●												日向
ノコンギク	●														日向、半日陰
ハンゲショウ		●	●												日向、半日陰～半日陰

凡例 ー: データ不足 凡例 : 開花時期 : 実のなる時期

種名	生きものの利用				開花時期・実のなる時期								日照条件				
	蝶	蜂	鳥類	他昆虫等	春		夏			秋		冬					
					3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	1	2
フキ (フキノトウ)		●	●	●	■	■										■	ー
ミズヒキ			●						■	■	■						日向、半日陰
ミソハギ	●	●						■	■	■							日向
ムラサキサギゴケ		●			■	■											日向
ヤブラン			●	●				■	■	■	■	■					日向、半日陰～半日陰、日陰
ヤマノイモ	●							■	■								日向
ワレモコウ	●	●		●			■	■	■	■							日向
ツル植物																	
キツタ			●	●	■	■					■	■	■				日向、半日陰～半日陰、日陰
サネカズラ (ビナンカズラ)			●	●					■		■	■					日向、半日陰～半日陰
スイカズラ	●		●			■	■	■									日向
ツルウメモドキ			●			■	■				■	■					日向
テイカカズラ		●				■	■										日向～半日陰
ナワシログミ			●		■	■					■	■	■				日向～半日陰
ムベ	●				■	■					■	■					日向～日向、半日陰
フジ (ノダフジ)	●				■	■	■			■	■	■					日向

資料2 レベル別チェックリスト

必ず行うこと

- 侵略性のある植物を使わない
- モニタリングを行う

レベル1 専門的な知識がなくても、すぐに取り組めるもの

- まずはプランターを一つ置いて緑化する
- 花や実をつける植物を植える
- 植える植物の種類を増やす
- 落ち葉を残す場所をつくる
- 草地をつくる
- 水場（バードバス、水鉢）を置く

レベル2 少し調べれば取り組めるもの

- 在来種を植える
- 花の色・高さ・開花時期に変化をつける
- 木の高さ・植える間隔に変化をつける
- 侵略性のある外来種を見つけたら抜く
- 目標種を設定する
- できるだけ農薬を使わない、有機肥料を使う

レベル3 手間はかかるが、さらなる生態系の回復につながるもの

- 在来種の割合をさらに高める
- 屋上緑化や壁面緑化を行う
- ビオトープ池をつくる



都心の生きものの復活事業
City of Nagoya

発行年月 令和6年9月
発行 名古屋市環境局環境企画部環境企画課
〒460-8508
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
TEL 052-972-2698
FAX 052-972-4134

